

第7回水稲病害虫発生予察結果（伊豆市内）



4月下旬～5月上旬田植えの早生品種(コシヒカリ・ひとめぼれ等)

【生育状況と栽培管理】

4月下旬から5月上旬に田植えを行った田んぼは、出穂期（田んぼ全体の40～50%穂が出ている状態）や穂揃期（田んぼ全体の80～90%穂が出ている状態）を迎えております。出穂期は稲の刈取り適期、カメムシ防除のタイミングを判断するうえで非常に重要な判断基準日となりますので、管理している田んぼの出穂期がいつなのか把握しておきましょう。

また、出穂には水が必要になりますので、田んぼの水を切らさないように、間断灌水をお願い致します。

【病害虫の発生状況】

出穂を迎えたことで、これからの時期はカメムシによる吸汁被害が発生します。「第6回水稲病害虫発生予察結果」にカメムシ防除での粉剤と粒剤の施用方法を記載させていただきましたのでご確認していただき、防除の徹底をお願い致します。

伊豆市内に発生が多いカメムシ



粉剤によるカメムシの防除タイミング図 薬剤:スタークル粉剤、トレボン粉剤



←→ 現状の生育段階

粒剤によるカメムシ防除タイミング図 薬剤:スタークル粒剤



スタークル粒剤 残効

←→ 現状の生育段階

5月中旬～下旬田植えの中晩生品種(きぬむすめ・あいちのかおり SBL 等)

【生育状況と栽培管理】

幼穂が0.1～0.3cmあるものが確認されました。中干しが終わった方は間断灌水を行って下さい。この時期は幼穂の生長を促す水と、根を健全に保つために酸素が必要な時期となりますので、田んぼを干上がらせないように注意してください。

また、今後のカメムシ対策として畦畔や田んぼ周辺の草刈りだけでなく、田んぼの中のノビエやホタルイなどの水田雑草もカメムシを誘引し、繁殖地になりやすいため雑草防除につとめてください。



【病害虫の発生状】

『紋枯れ病』が確認されております。紋枯れ病が進行してしまうと、倒伏しやすくなる上、養分・水分の吸収が阻害され収量や品質の低下を招きます。紋枯れ病の症状を見かけたら早期に薬剤による防除を行ってください。

**過去の予察結果・栽培管理は
こちらからご覧になれます！**



作成日：令和5年7月18日

J Aふじ伊豆修善寺営農経済センター

担当：竹村

電話：0558-72-4461